

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

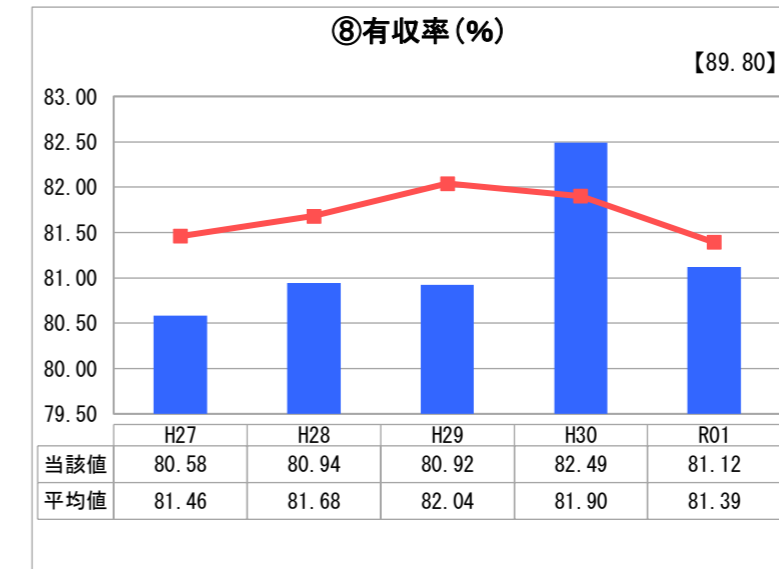
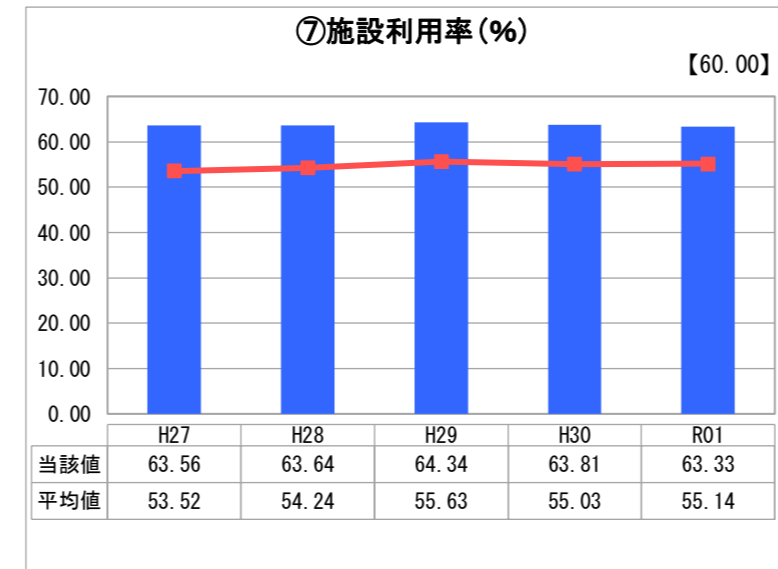
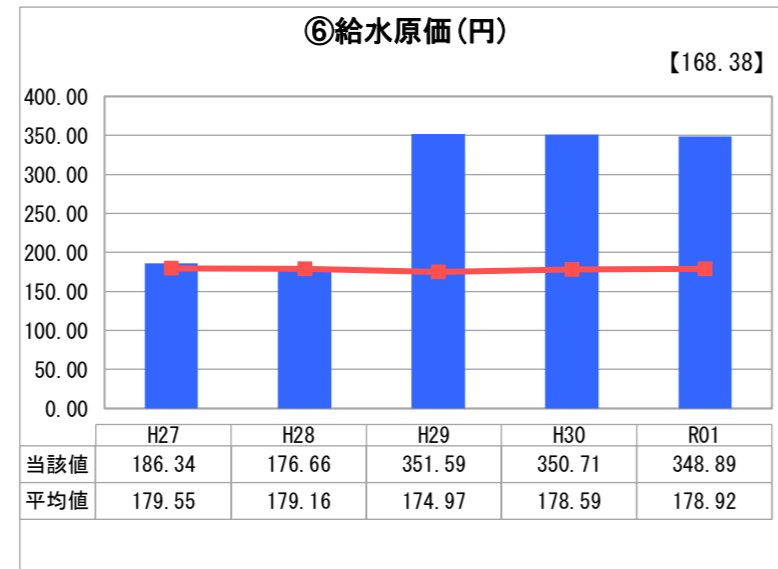
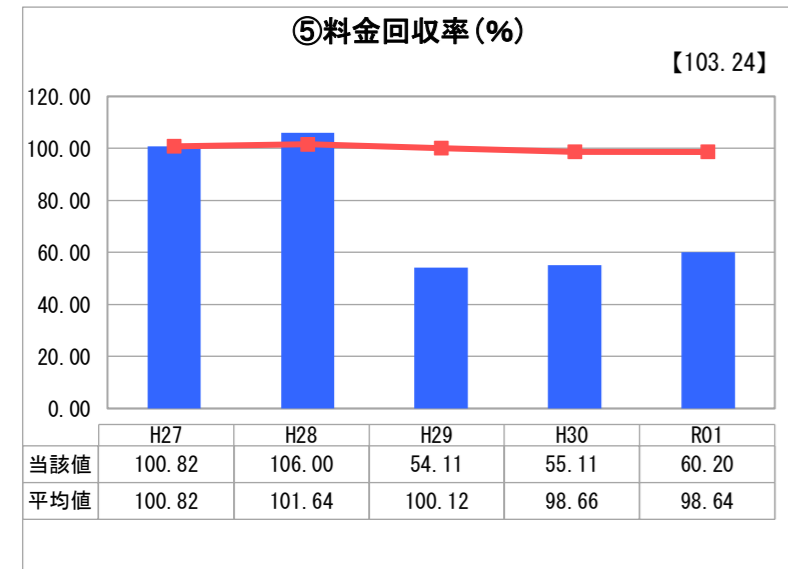
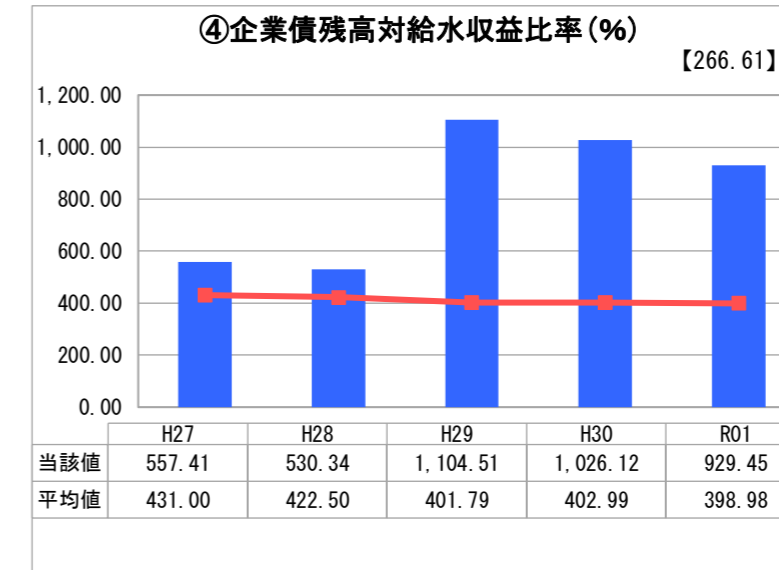
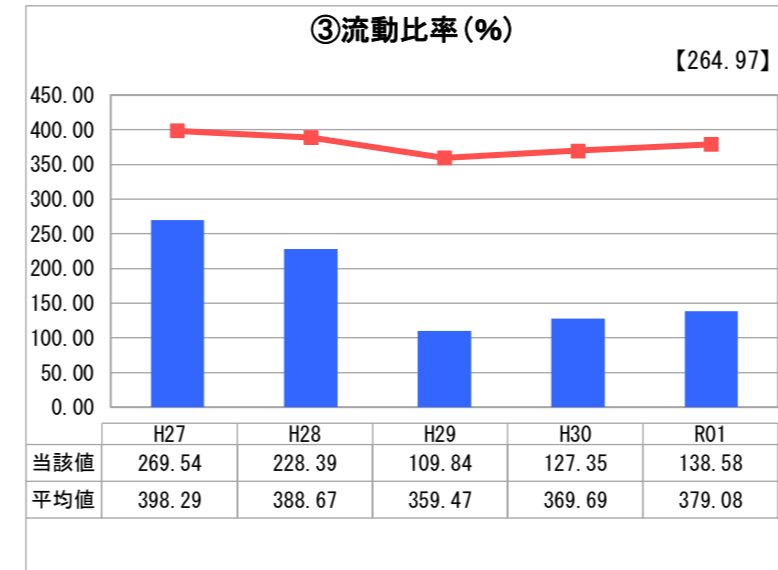
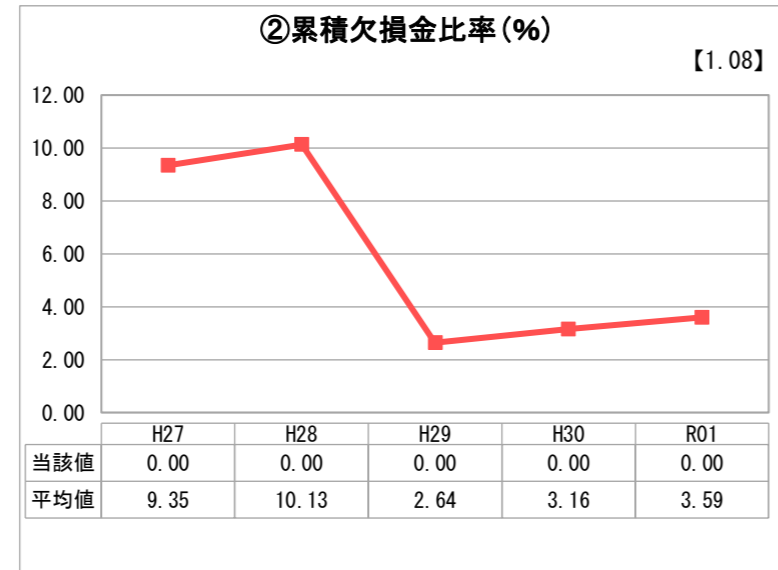
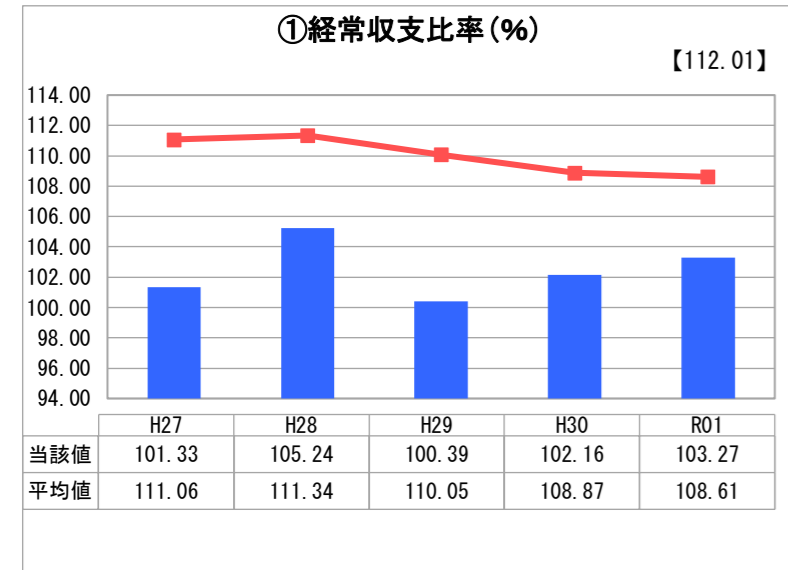
広島県 安芸高田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	60.15	76.74	3,762	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,483	537.75	52.97
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
21,711	81.84	265.29

<b>グラフ凡例</b>
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

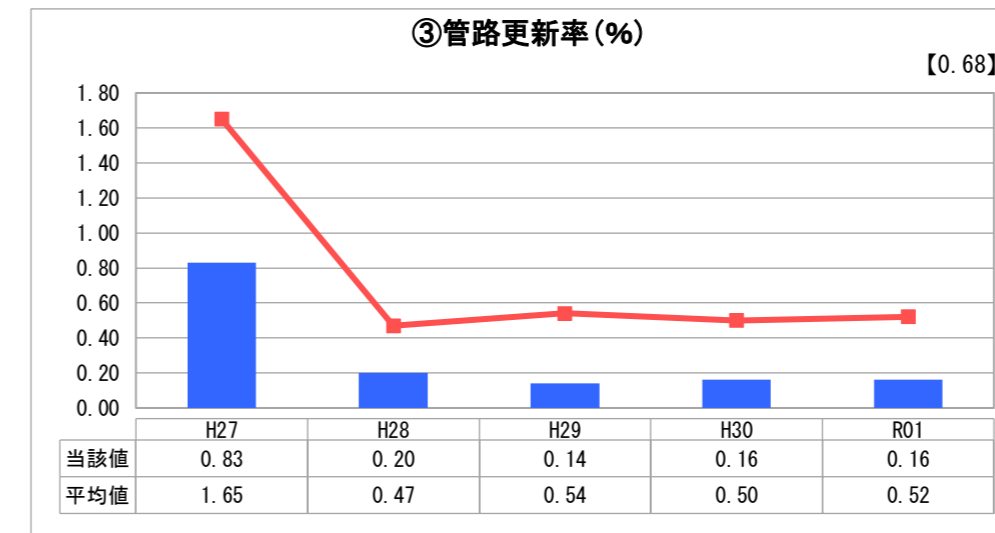
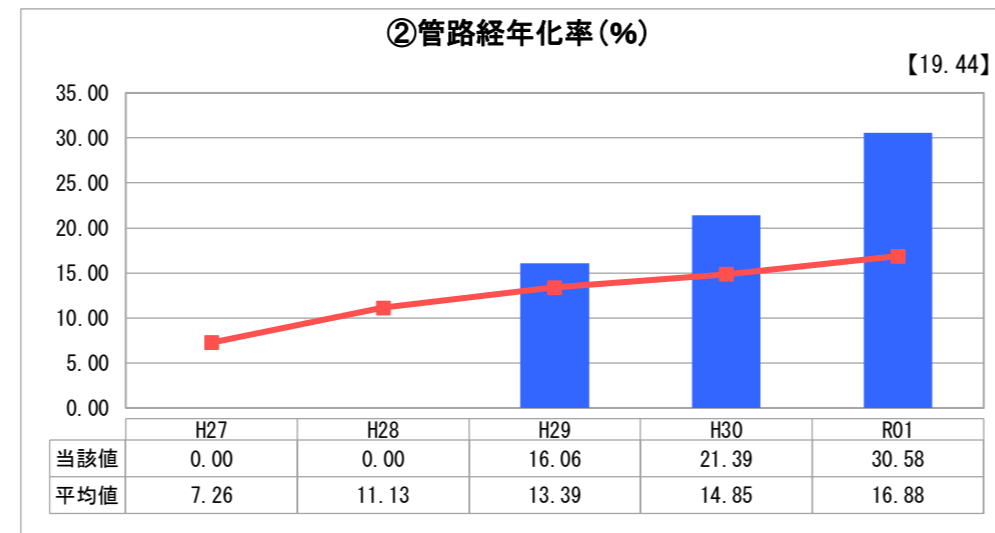
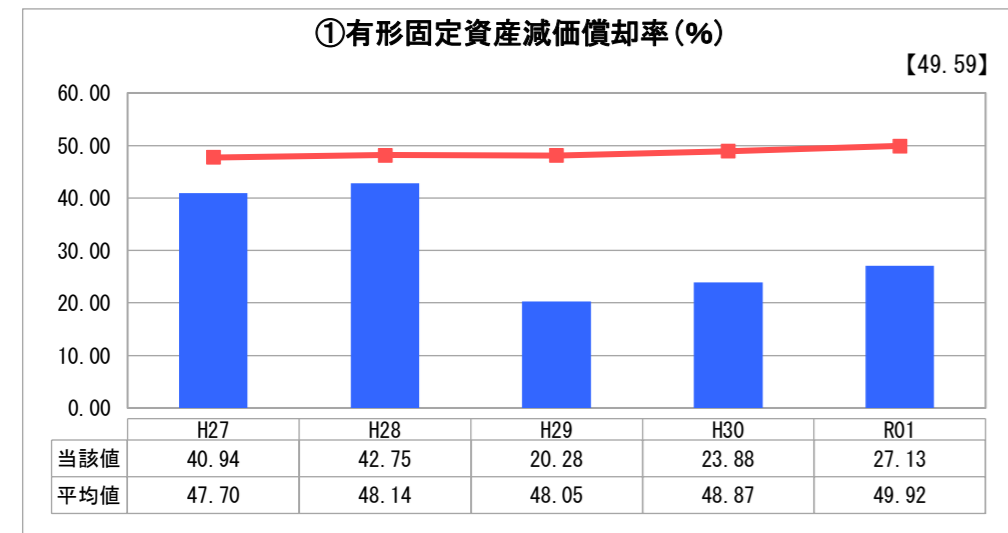
### 1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は100%を超え黒字となっているが、類似団体平均値よりも下回っている。今後繰入金削減の可能性もあり、更なる費用削減の取組をする必要がある。  
 「②累積欠損金比率」は欠損金を生じていないため0%で推移している。  
 「③流動比率」は100%を上回っていることから、短期的な支払い能力は確保できている。  
 平成29年度以降、「④企業債残高対給水収益比率」と「⑥給水原価」は上昇し、「⑤料金回収率」は低下した。いずれも簡易水道事業の統合によるものだが、今後投資規模に対する適正な更新計画の検討、維持管理費の削減などの取組をする必要がある。  
 「⑦施設利用率」は類似団体平均値、全国平均値より高い数値で推移している。しかし現在は少子化により給水人口の減少が見込まれるため施設の統廃合等の検討を行う必要がある。  
 「⑧有収率」は80%台で推移している。引き続き漏水調査・修理を実施し有収率向上に努める必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産原価償却率」は平成29年度に大幅に低下したが、これは比較的新しい施設を有する簡易水道事業の統合によるものと思われる。しかし、今後は「②管路経年化率」の上昇が想定される。「②管路経年化率」は類似団体平均値を上回り、「③管路更新率」は下回っている。今後は計画的かつ効率的な更新を実施していく必要がある。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

給水人口が減少する中、経営の健全化と効率性を高めるため、平成28年度には経営戦略を、30年度には水道ビジョンを策定した。将来を見据えた料金改定により料金収入を確保するとともに、広域化や統廃合を含めた計画的な施設の更新と維持管理を実施していく必要がある。